

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 4月8日 11:55AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 31,500～40,000 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 36,500～40,800 ドル
(S&P500) 4800～5500

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 14,500～17,000

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 139.000～152.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～105.000

(おことわり) 4月11日(金)の本レポートを休載致します。次回号は4月15日(火)の予定です。予めご了承ください。

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波(合計8つの波)で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

4月7日、日経平均は歴代3位の下げ幅を記録し、日中安値(30,792円)は24年8月安値(31,156円)を割れました。

これまで24年8月底に次ぐ「二番底」へ向けた下げとみていたのは誤りでした。

なおこの日の安値(30,792円)はインターミディエイト級(1)波高値(30,795円)と(僅か3円ながら)重なり、1波と4波が重ならない「ノーオーバーラップ」の原則に抵触しました。ただし終値(31,136円)では重なっていません。

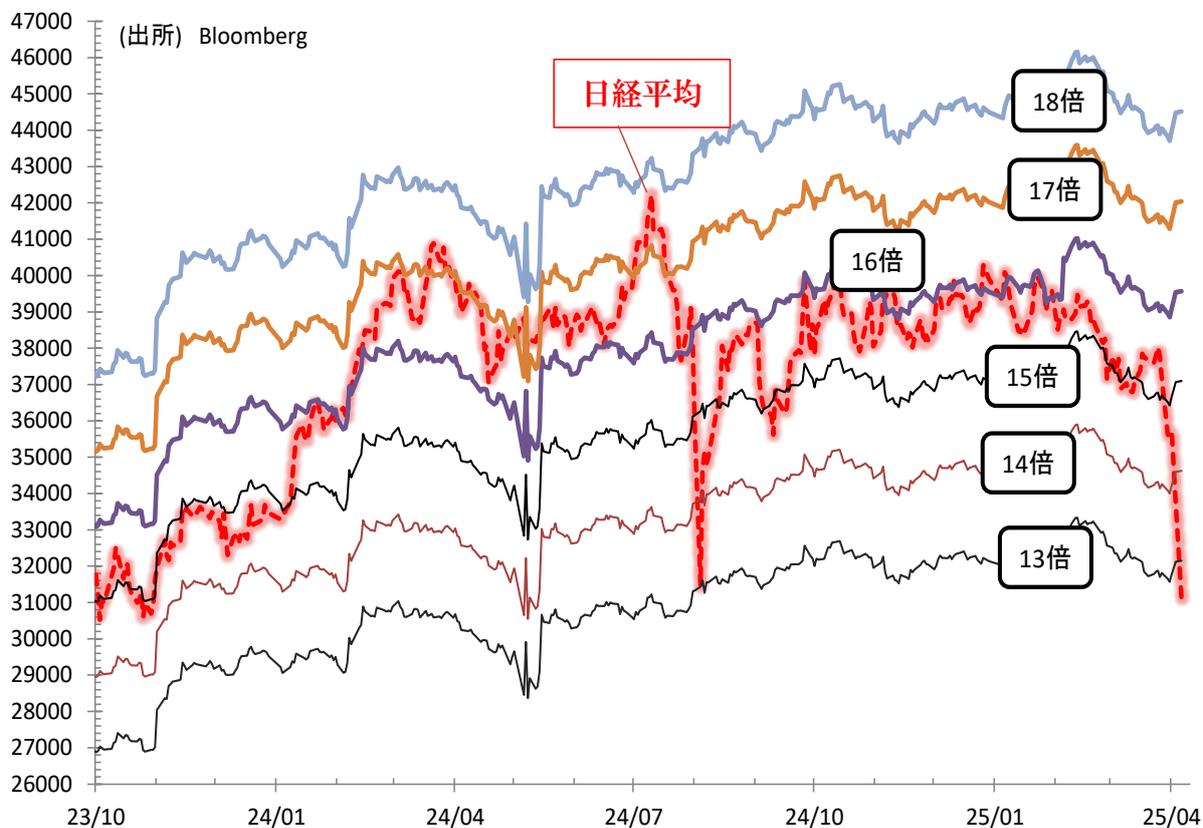
今後終値で30,795円を下抜くと別の見方が必要になりますが、まだインターミディエイト級第(4)波が展開中という見方はできます。

さらにTOPIXはこの日安値(2243)が、24年8月底(2206)に次ぐ「二番底」になる可能性があります。このような、日経平均とTOPIXの間の「未確認」は底入れのサインとして注目できます。

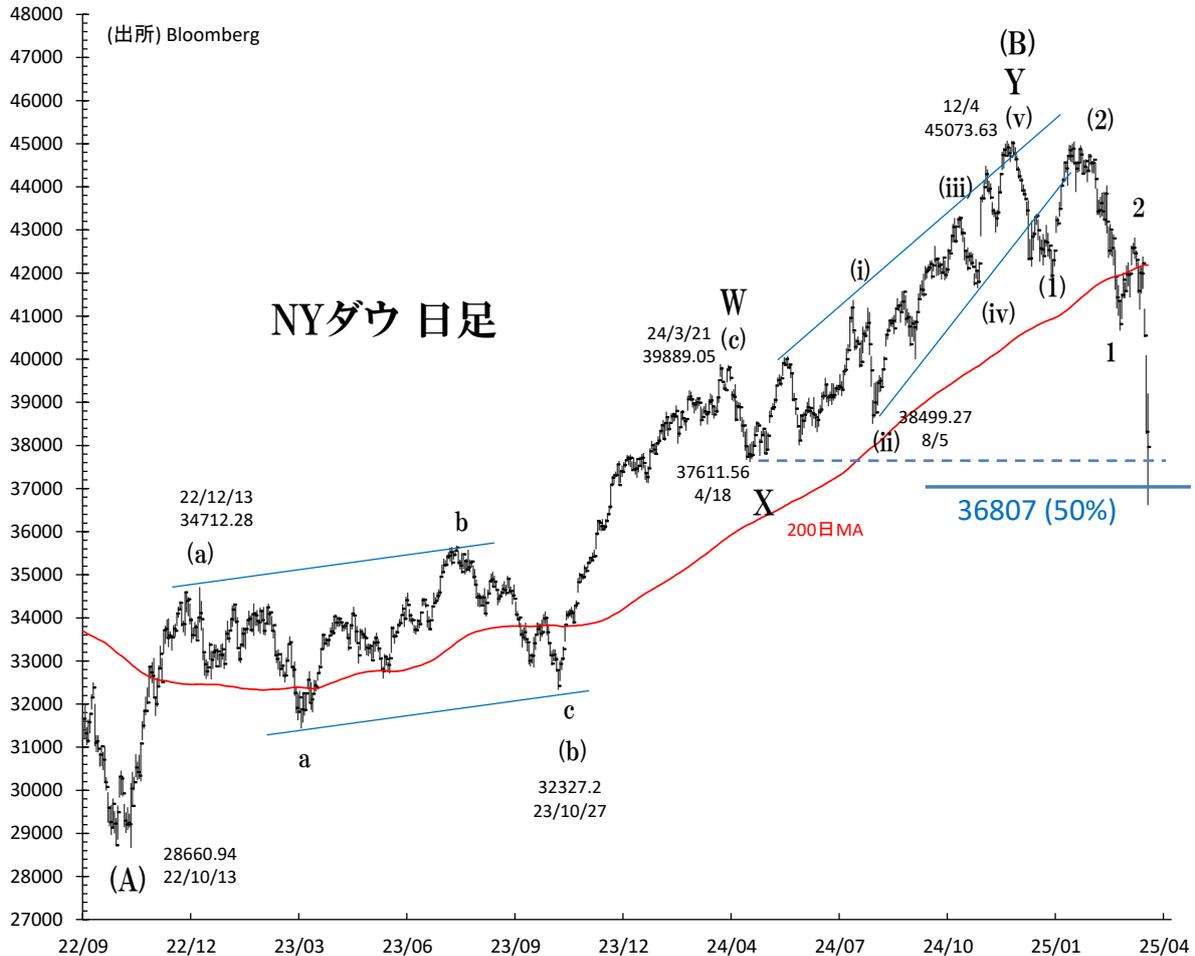


[予想 PER 別の日経平均水準]

日経平均予想 EPS は 2473 円(4/7)。過去最高は 2564 円(2/13)です。4 月 7 日の歴代 3 位の下落により、この日の PER は 13 倍を大きく下回りました(12.59 倍)。



NY ダウ・S&P500



【日足 エリオット波動分析】

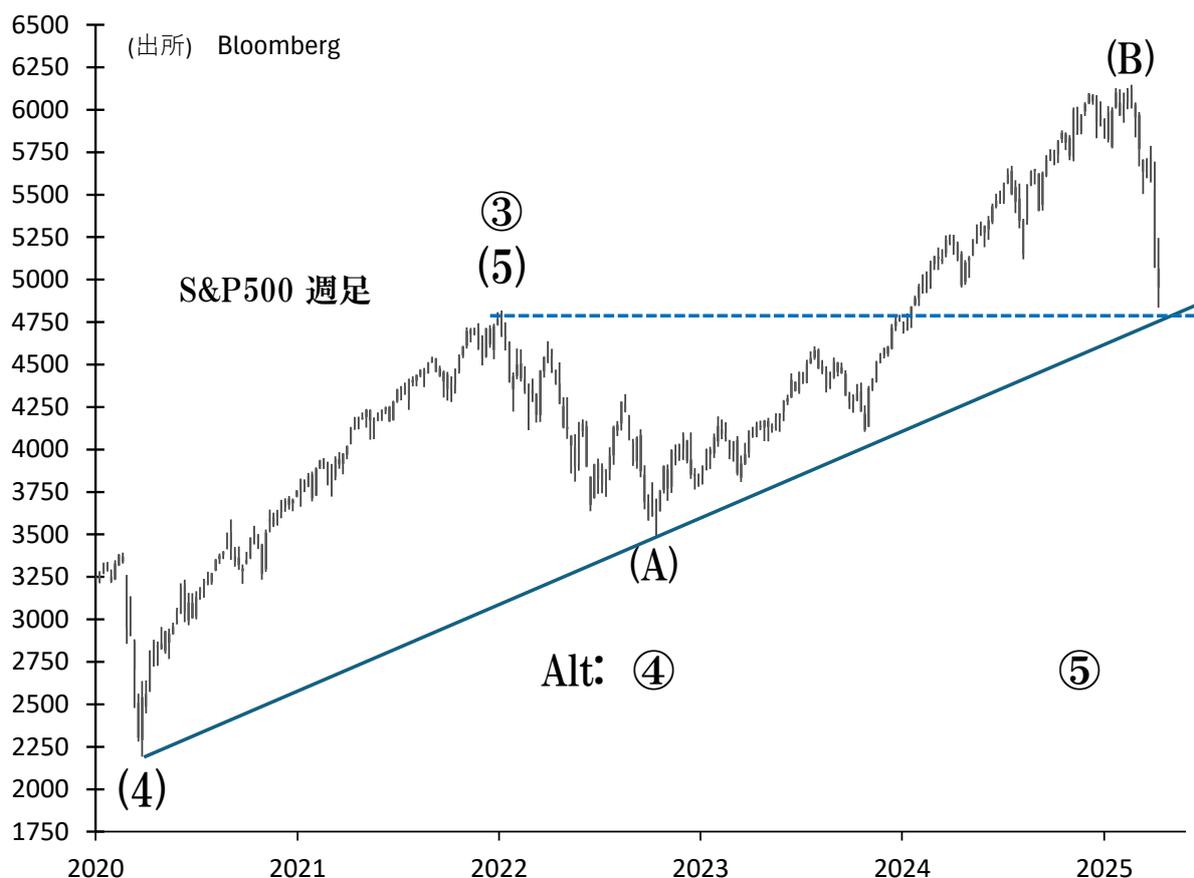
24 年末、筆者は次のように予想しました。

(NY ダウは 25 年に) 22 年 10 月以降で一度もなかった大きなスケールの調整に発展していくでしょう… 当面の下値ターゲットとして有力な水準として 24 年 4 月安値(37,611 ドル)—これは[エンディング・ダイアゴナル]の始点です—を挙げることができます。

この想定通り、NY ダウは 22 年 10 月以降で最大の調整に拡大しています。そして、調整はまだ進行中です。

22 年 1 月～10 月の(A)波は 22.4%下げました。(C)波はそれと同等か、より大きな下落スケールになると思われます。試みに最高値から 22.4%下げる水準は[34,977 ドル]であり、3 万 5000 ドル処は中期タームの下値目標といえそうです。

短期的にはリバウンドがあっただけでありません。36,611 ドル(4/7 安値)は、22 年から上昇の半値押し [36,807 ドル]に相当します。



【S&P500 週足 エリオット波動分析】

今回のレポートからは、2020年以降のS&P500の週足を追っていきましょう。

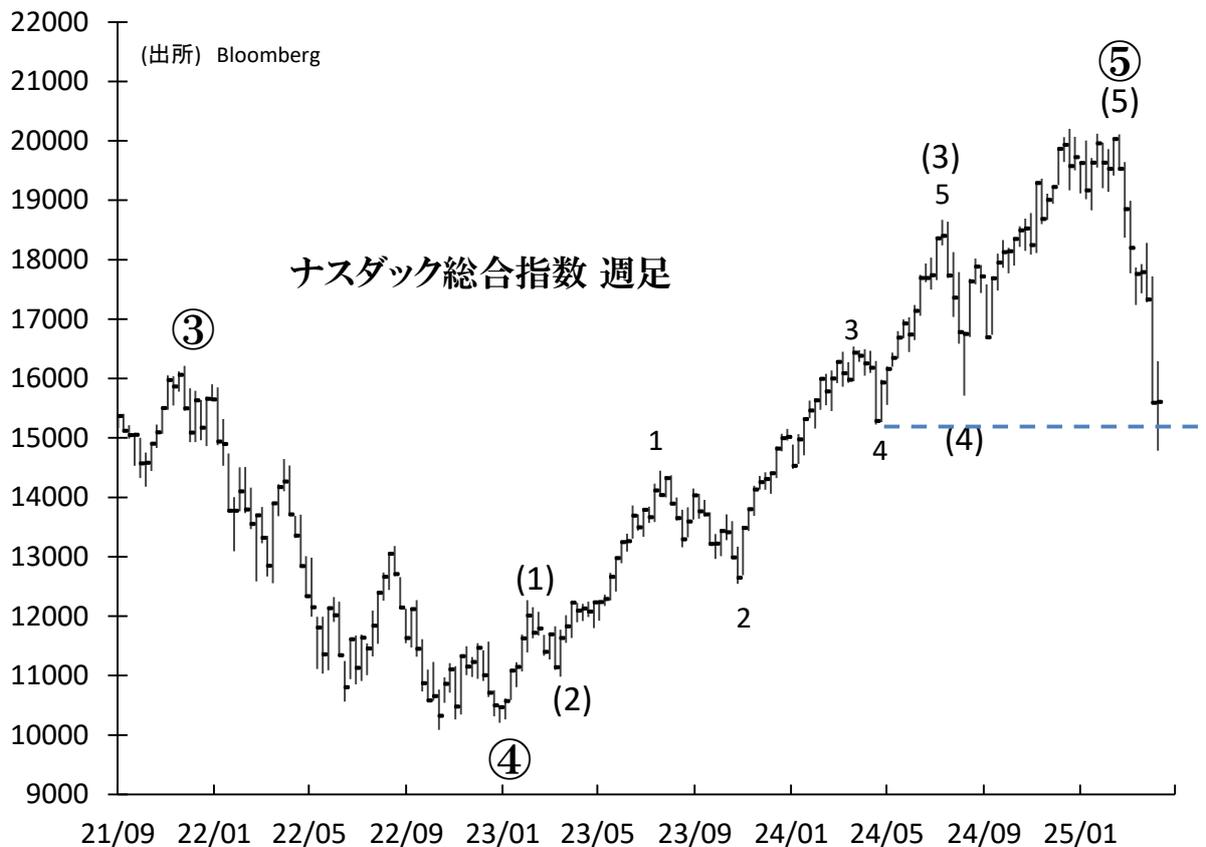
筆者の長期的な波動カウントは—もはや覚えていない人も多いでしょうが—22年1月高値(4818)を起点にプライマリー級④波による調整(A)-(B)-(C)が進行中、というものです。(B)波は最高値を更新し続けたわけですが、それは④波中(B)波による上昇であり、今年の高値は「イレギュラートップ」です。そこからは(C)波による下落が進行中とみられます。この(C)波の完了を以て、プライマリー級の④波すべてが完成し、数年単位の強気トレンド(プライマリー級の第⑤波)が開始されるでしょう。ハイテク株で構成されるナスダックとは違い、ハイテク株と非ハイテク株のハイブリッドであるS&P500は、いずれ最高値を更新する可能性もありそうです。

直近安値は—4月7日には一時4835まで下げました—22年1月高値[4818]と、20年からのサポートラインの両方に近づいています。そろそろ下げ渋りから反発局面を迎えておかしくない、といえそうです。

なお④波中の(A)波は27.84%下げました。(C)波が同率で下げるなら、下値メドは[4435]となります。

なお④波が「エクспанディット・フラット」になる可能性にも留意しておかなければなりません。この場合には、(C)波安値は、(A)波安値[3491]を下抜くこととなります。

ナスダック



【ナスダック総合指数 週足 エリオット波動分析】

ナスダック総合指数(以下、ナスダック)は、22年12月安値(10,207)からサイクル級の調整が進行中とみられます。

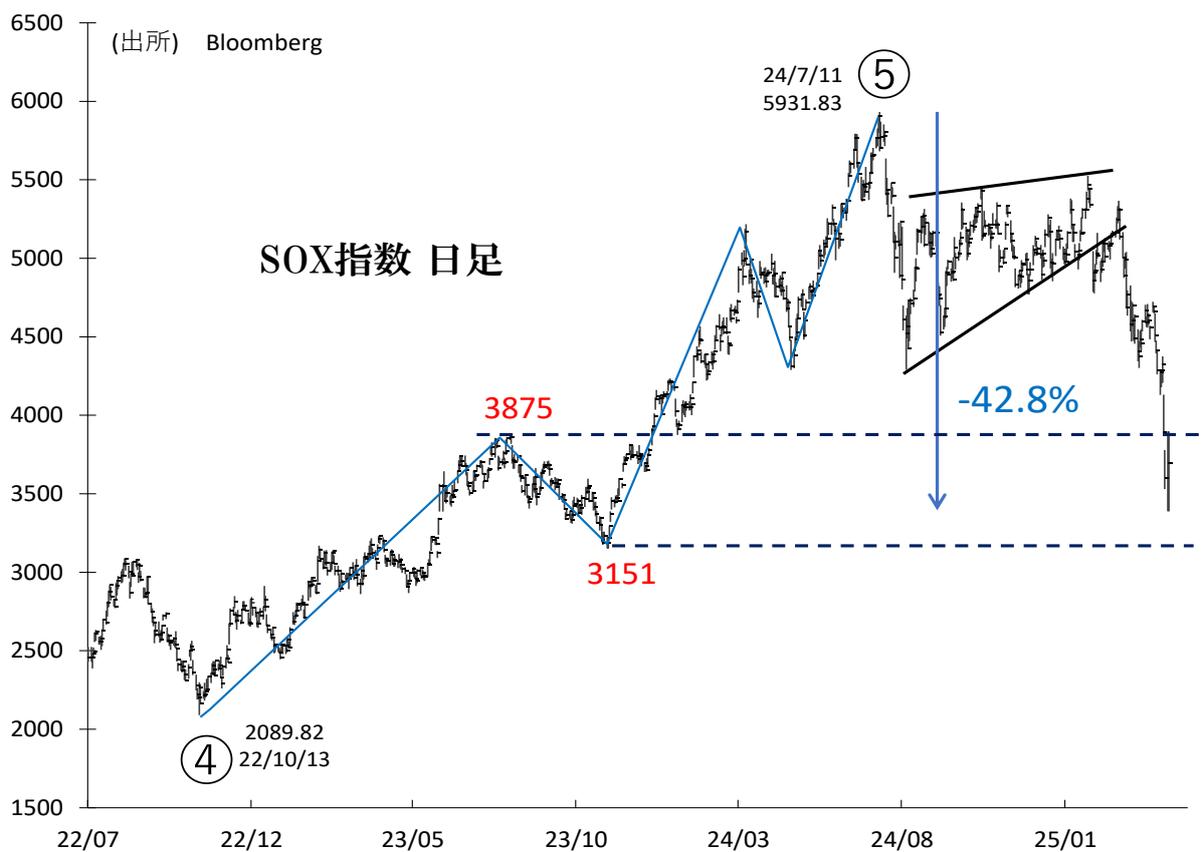
4月7日、ナスダックは一時14,784まで下げ、当面の強いサポートレベルとみられた1万6000処をいとも簡単に下抜きました。

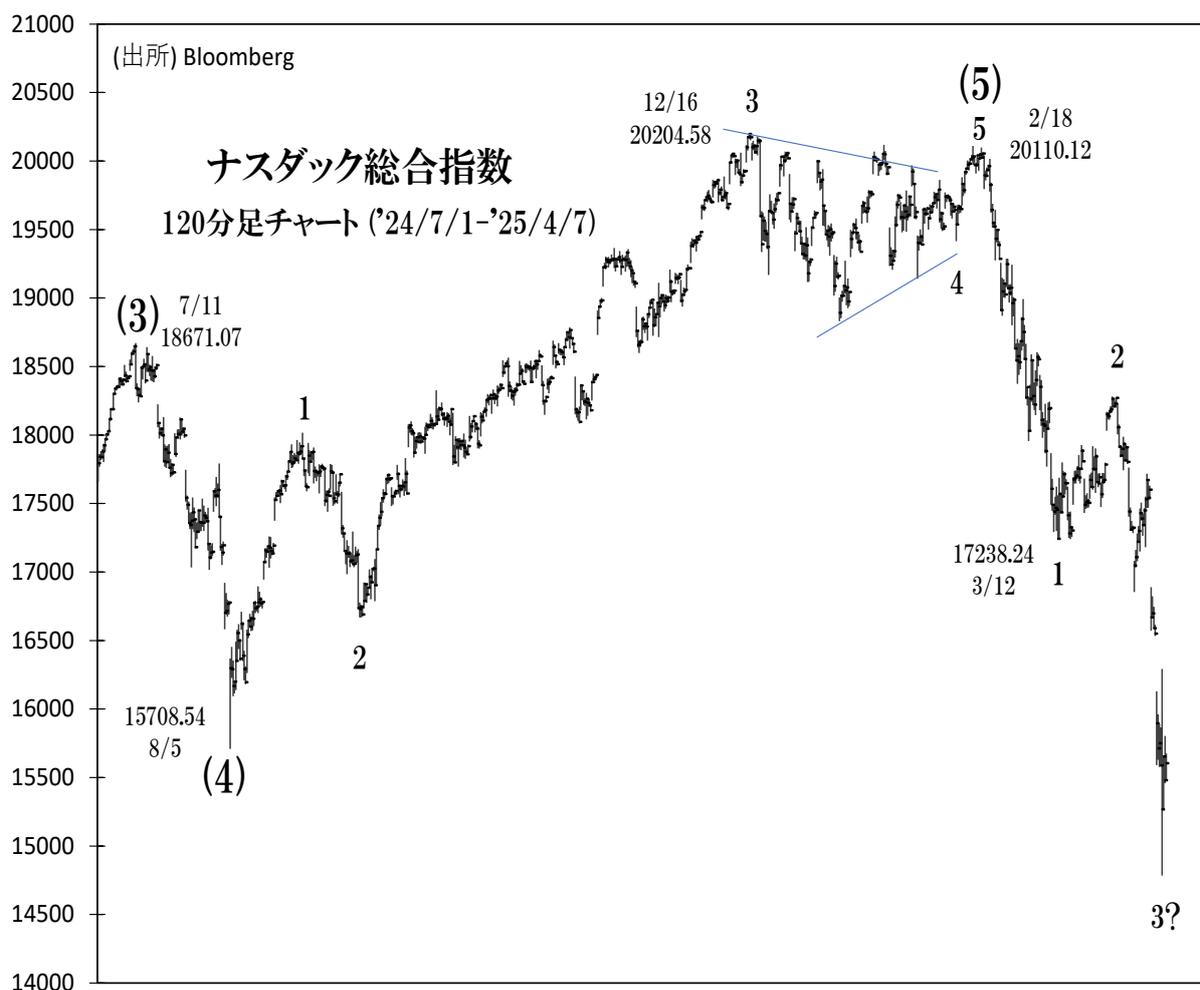
もっとも、この日の安値は、プライマリー第⑤波の上昇における第(3)波の第4波安値(15,158)に一重要サポートレベル—達しています。示していませんが、この日は一時50カ月MA(14,580)に接近しています。過去においてナスダックは、50カ月MA付近で下げ止まり、反転するケースが目立っていました。過去のパターンからいえばいったんは下げ止まっておかしくないと思われます。

ただし中長期の弱気観には変更ありません。

21年～22年のプライマリー④波の下げ率(37.77%)は、ほぼフィボナッチ比率(38.2%)でした。

今後1～2年という期間では [12,527] (24年12月高値から38%下げる水準)へ下押す可能性もあるでしょう。





【時間足 エリオット波動分析】

足元の急落は、マイナー級の第3波によるもので、それは終わったか、終わりつつあるとみられます。

マイナー級の第4波によるリバウンドがそろそろ開始される可能性があるでしょう。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

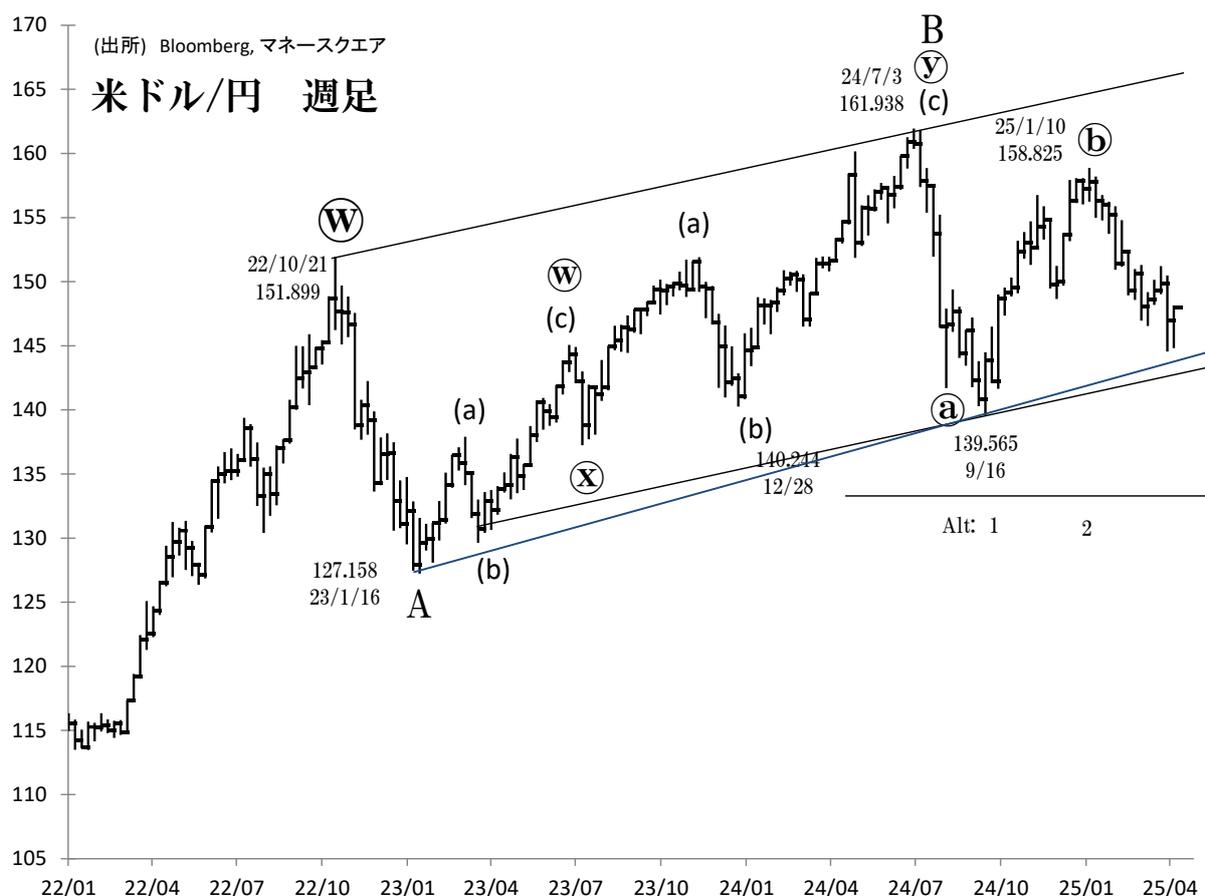
151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028年4月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。24年7月の161.938円は、15年6月・125.860円から9年目に付けた「8年サイクル高値」とみられます。

22年10月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。

①の場合、現行C波はA波安値(127.158円)を下回りません。C波は三波で構成され、2011年からの上昇チャネルのセンターライン(①)が強いサポートになるでしょう。

①の水準は136.425円(4月)に位置します。

②の場合は、現行C波(五波構成)はチャネル下限(②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。②の水準は116.800円(4月)です。



【週足 エリオット波動分析】

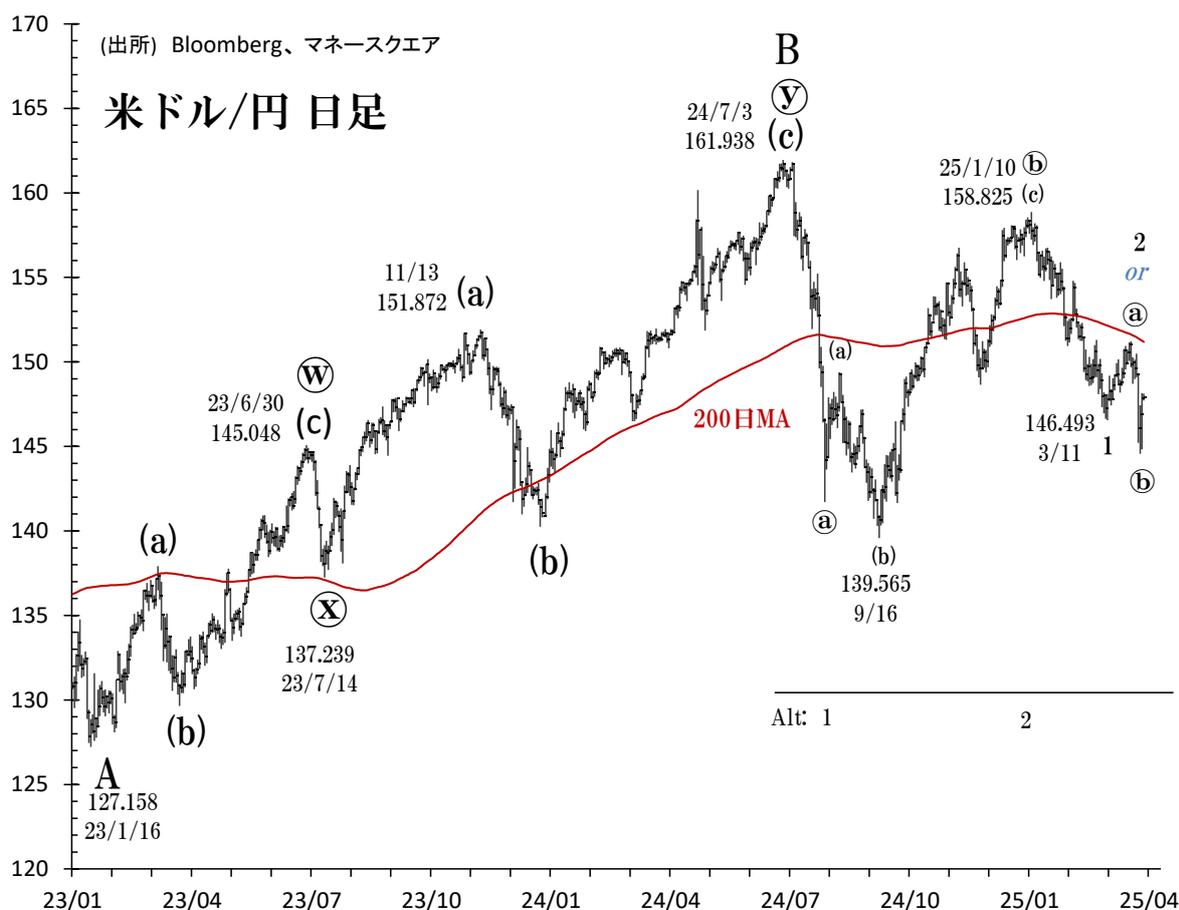
161.938 円(24/7/3)からは C 波によるドル安・円高トレンドです。月足分析で記した B 波[トライアングル]説によれば、C 波は三波構成(Ⓐ-Ⓑ-Ⓒ)になります。158.825 円(1/10)から、Ⓒ波によるドル安・円高が進行中とみられます。

足元、過去 2 年間にわたるチャネルの下限にほぼ達しており、**当面はリバウンド(保ち合い相場)となりそう**です。

もっとも今年の前半にもドル/円は、24 年 9 月の 139.565 円を下抜く可能性があります。以下の水準はⒸ波ターゲットとして要注目です。

[138.517 円]…Ⓐ波とⒸ波が等しく下がる水準

[136.452 円]…24 年 7 月から 9 月までドル/円下落幅と、今年 1 月からのドル/円下落幅が等しい



【日足 エリオット波動分析】

4月4日に一時144.522円まで下げ、そこからは急反発となっています。

ドルインデックスが当面リバウンドに入ったことと歩調を合わせ、ドル/円もリバウンドかもしれません。

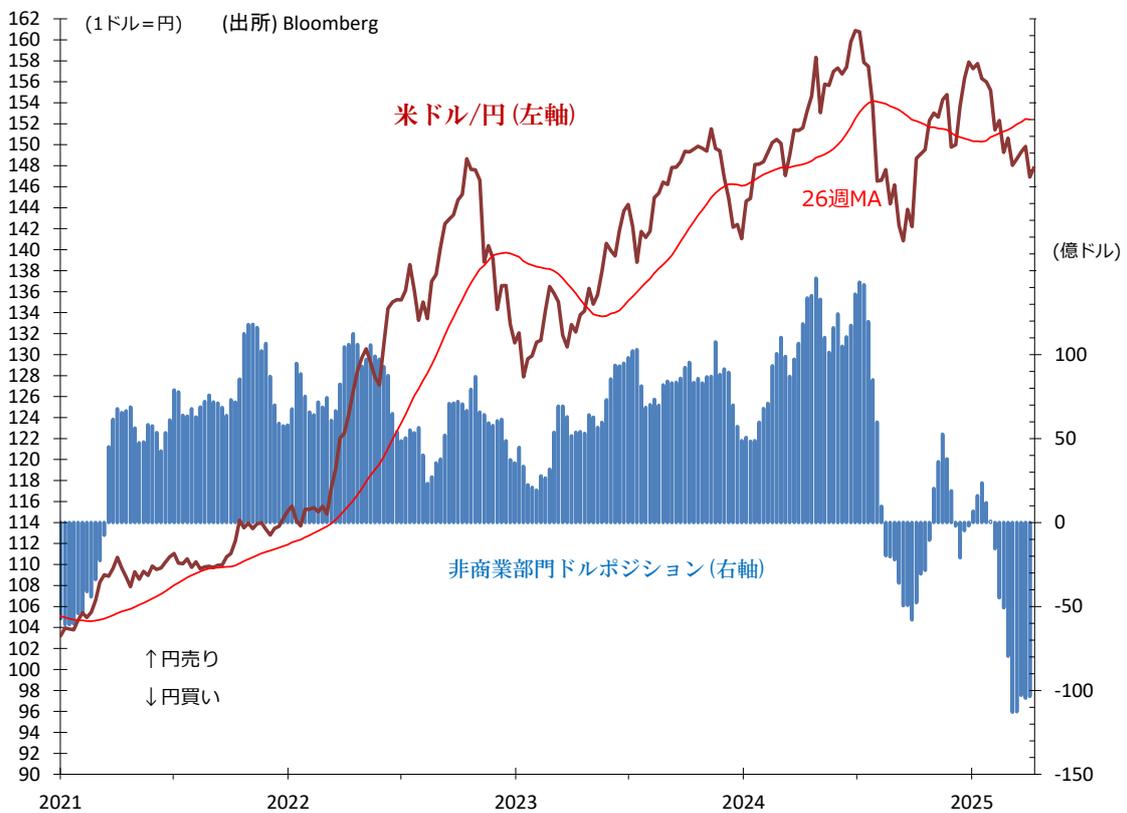
146.493円(3/11)からの第2波は「エキスパンディッド・フラット」の可能性があります。そうだとすると、次の下落が起きる前に151.191円(3/28)付近へ上昇、あるいは上回るでしょう。

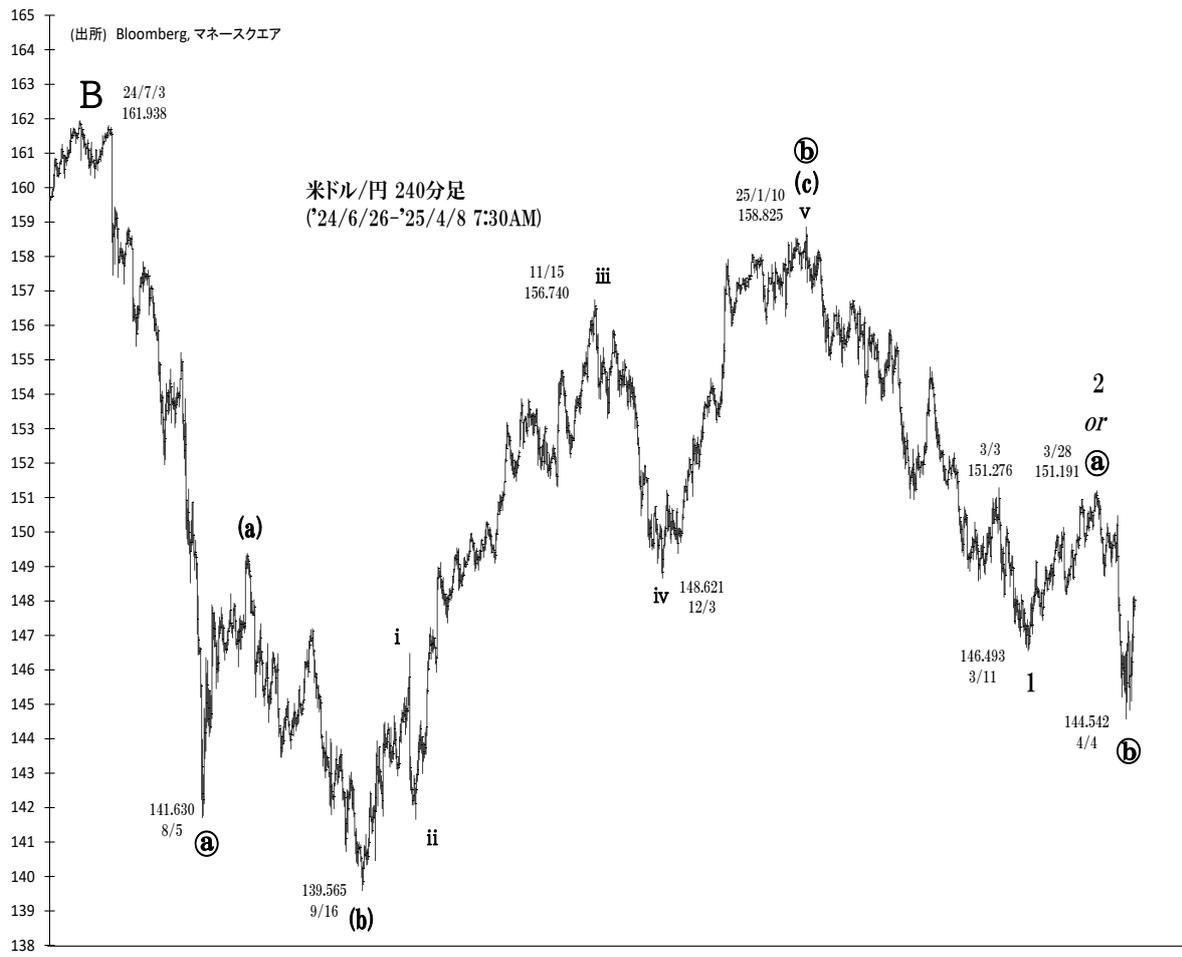
金利差からのドル/円推計値

足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[146.400円]です。

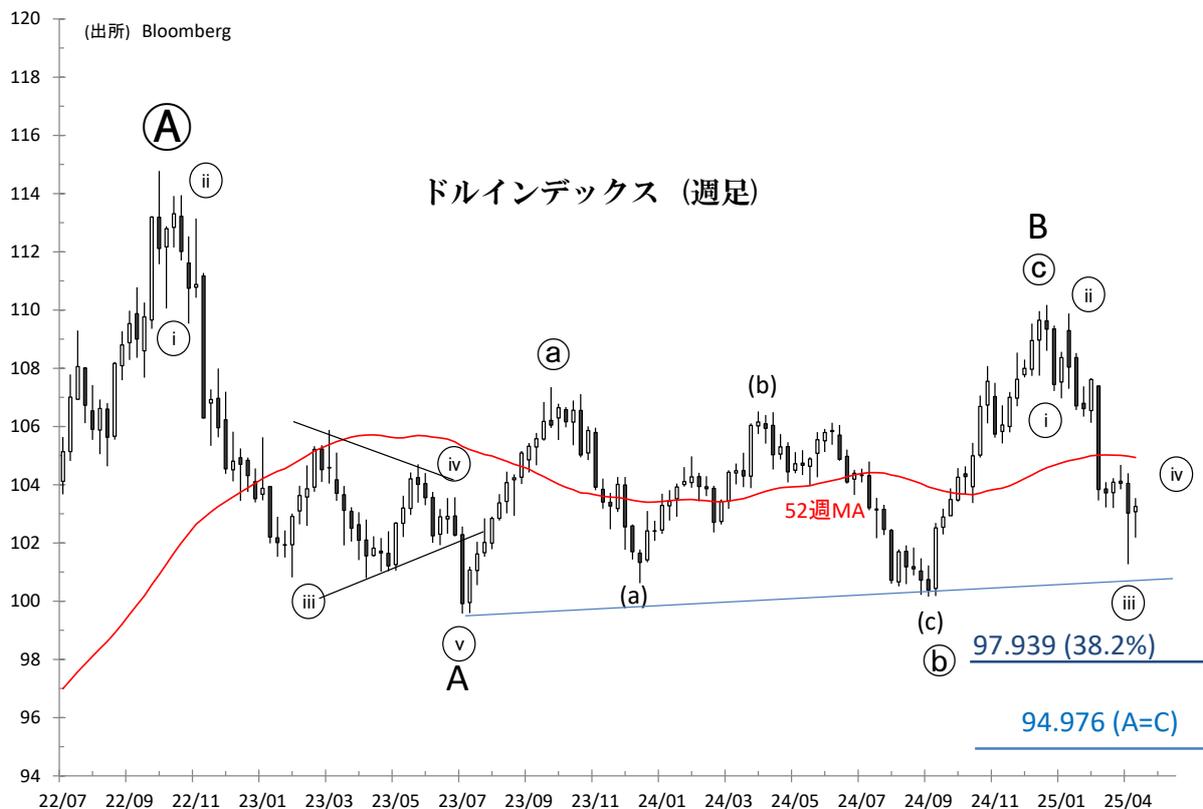
投機筋の円買い持ち高は若干の減少(2025年4月1日時点)

IMM 通貨先物市場における、投機筋(非商業部門)の円買い持ち高は、前週の104.5億ドルから103.5億ドルへ、若干の減少となりました。





ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

110.176(1/13 高値)からのドル安は、C 波に位置付けられます。

先週(3/31-4/4)のドル安において、一時は 101.267(4/3)と半年ぶりドル安となりましたが、週末にかけては急速に下げ渋る動きをみせました。このため週足には長い下ヒゲを作り、**少なくとも当面の、ドル安値を付けた可能性があります。**

109.881(2/3 高値)から C-マル iii 波は終わり、C-マル iv 波に入ったと思われます。マル ii 波が短期間で終わったため、「オルタネーション」に従い、マル iv 波はおそらく今後**数週間から 2~3 カ月にわたる保ち合い相場(トライアングルなど)になるでしょう。**

このマル iv 波を終えた後は、C-マル v 波が開始され、それは**少なくとも 23 年 7 月安値(99.578)を下回るでしょう。**23 年 7 月安値よりやや下に、08 年からのドル高に対する 38.2%押し水準[97.939]が控えており、ドル安のメドとして有力視できます。

22 年 9 月~23 年 7 月の A 波において、ドル指数は 10 カ月で 13.2%減価しました。C 波も同様と仮定すると、**今年 11 月頃にドル指数が[95.632]まで下げる可能性を指摘できます。**

なお A 波と C 波が同幅下げるとすると[94.976]が得られます。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
